



平成23年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年4月28日

上場会社名 アサヒビール株式会社
 コード番号 2502 URL <http://www.asahibeer.co.jp>

上場取引所 東大

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 泉谷 直木
 問合せ先責任者 (役職名) 広報部長 (氏名) 森田 健

TEL 03-5608-5126

四半期報告書提出予定日 平成23年5月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年12月期第1四半期の連結業績(平成23年1月1日～平成23年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年12月期第1四半期	280,223	△1.4	7,412	—	10,552	—	3,635	—
22年12月期第1四半期	284,121	2.4	△2,458	—	△1,881	—	4	—

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年12月期第1四半期	7.81		7.81	
22年12月期第1四半期	0.01		0.01	

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円	銭
23年12月期第1四半期	1,333,348		612,856		45.9		1,314.49	
22年12月期	1,405,358		612,670		43.6		1,315.51	

(参考) 自己資本 23年12月期第1四半期 611,839百万円 22年12月期 612,191百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
22年12月期	—	10.50	—	12.50	23.00	
23年12月期(予想)	—	11.50	—	11.50	23.00	

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年12月期の連結業績予想(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	682,000	2.2	29,500	19.5	32,500	16.6	12,500	△19.6	26.86	
通期	1,490,000	0.0	107,000	12.2	112,000	10.7	57,000	7.4	122.48	

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.5「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年12月期1Q 483,585,862株 22年12月期 483,585,862株

② 期末自己株式数 23年12月期1Q 18,128,888株 22年12月期 18,220,056株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年12月期1Q 465,422,497株 22年12月期1Q 465,117,482株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

2. 当社グループの業績は、主要な事業である国内酒類、国内飲料事業の需要が特に夏季に集中するため、季節変動があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	5
(1) 重要な子会社の異動の概要	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
(7) その他注記事項	12
4. 追加情報	13
(1) 補足資料	13

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間（平成23年1月1日～3月31日）におけるわが国経済は、海外経済の回復などにより持ち直しの動きが見られたものの、3月に発生した東日本大震災の影響などにより引き続き厳しい状況となっております。

酒類業界におきましては、マーケット全体の中長期的な減少や消費者の嗜好の多様化に加えて、東日本大震災の影響などにより、ビール類全体の課税移出数量は前年同期比1.1%減となりました。

このような状況の下、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,802億2千3百万円（前年同期比1.4%減）となりました。また、利益につきましては、営業利益は74億1千2百万円（前年同期比98億7千万円増）、経常利益は105億5千2百万円（前年同期比124億3千3百万円増）、四半期純利益は震災に伴う特別損失約69億円を計上し、36億3千5百万円（前年同期比36億3千万円増）となりました。

当四半期のセグメントごとの概況

(単位：百万円)

	売上高	前期増減	前年同期比	営業利益	前期増減	前年同期比
国内酒類	162,656	△4,001	△2.4%	8,767	8,225	—
国内飲料	60,896	2,839	4.9%	△1,463	177	—
国内食品	23,052	1,761	8.3%	1,113	1,031	—
国際酒類飲料等	20,675	△3,645	△15.0%	△601	799	—
その他	12,942	△852	△6.2%	△363	177	—
調整額	—	—	—	△39	△541	—
合計	280,223	△3,897	△1.4%	7,412	9,870	—

(注) 当第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しており、前第1四半期連結累計期間の金額を同基準に準拠し算出して比較しております。

国内酒類事業

国内酒類事業につきましては、主力商品のブランド強化や、新たな需要喚起に向けた活動を徹底するとともに、経営環境の変化に左右されない収益基盤の強化に取り組みました。

(ビール・発泡酒・新ジャンル)

ビールについては、旗艦ブランドである『アサヒスーパードライ』のブランド強化に注力しました。福山雅治氏を起用した広告を継続展開するとともに、2月に広告と連動した“福山雅治氏とのコラボレーションキャンペーンパック”を発売するなど、ブランド価値の向上に向けて情報発信や販売促進活動を積極的に展開しました。

発泡酒については、“糖質ゼロ”※1のパイオニアである『アサヒスタイルフリー』において、「糖質ゼロでおいしい」という特長を訴求した各種販促施策を展開することなどにより、既存ユーザーとの絆をより強めると共に、新たなユーザーの獲得を図りました。

新ジャンルについては、主力ブランドである『クリアアサヒ』において、クオリティアップの実施や2月に“桜デザインパック”を発売するとともに、新たな広告を展開することで、ブランド強化に取り組みました。また多様化するニーズに対応し、3月に“麦100%の新ジャンル”※2『アサヒ一番麦』を新発売し、糖質70%オフ・プリン体80%オフの新ジャンル『アサヒオフ』を加えたラインアップにより、当社新ジャンルブランド群の更なる存在感の向上に努めました。

以上の取り組みを進めた結果、1～2月の売上数量は前年を上回りましたが、東日本大震災により生産・物流拠点の一部を被災し供給面に影響が出たことなどにより、ビール類トータルでは前年同期比1.4%減となりました。

※1 栄養表示基準に基づき、糖質0.5g(100ml当たり)未満を“糖質ゼロ”としております。

※2 麦芽・大麦・スピリッツ(大麦)を使用。ホップ使用量(0.5%未満)を除く。

(焼酎・低アルコール飲料・洋酒・ワイン)

焼酎においては、主力ブランドの『かのか』『大五郎』の桜デザイン商品を展開し、また、『本格焼酎 薩摩こく紫』の飲食店向けのキャンペーンを実施するなど、ブランド育成を図りました。

低アルコール飲料においては、主力ブランドの『アサヒ Slat(すらっと)』『アサヒカクテルパートナー』のブランド育成に注力しました。また、昨年コンビニエンスストア限定で発売したヘビーユーザー向けのブランド『アサヒスパークス』を2月に全業態に販売を拡大するなど、新たな価値の提供にも努めました。

洋酒においては、基幹ブランドの『ブラックニッカクリアブレンド』『竹鶴』のブランド育成・強化に取り組み、特にハイボール人気の高まる中、缶入りの『ブラックニッカクリアハイボール』や、『ブラックニッカクリアブレンド 樽詰めハイボール』の展開を積極的に進めました。

ワインにおいては、輸入ワインの主要価格帯に対してフランスの『ジネステ』やイタリアの『アンティノリ』といった既存ブランドに加え、フランス・ローヌ地方のブランド『ニコラ・ペラン』などの新商品を発売し品揃えの充実を図りました。

3月の東日本大震災では、焼酎・洋酒・ワインの製造拠点においては大きな被害はなかったものの、一部の商品については、資材の供給や物流面での影響により販売を休止しました。また、低アルコール飲料では製造・物流拠点の一部が被災し、主力商品の大半を販売休止とした結果、ビール類以外のカテゴリー合計の売上高は前年同期比3.5%減となりました。

以上の結果により、国内酒類事業の売上高は、前年同期比2.4%減の1,626億5千6百万円となりました。また、営業利益は、主に広告・販促費の抑制などにより、前年同期に比べ82億2千5百万円増加し、87億6千7百万円となりました。

国内飲料事業

国内飲料事業につきましては、中核会社である「アサヒ飲料株式会社」が、主力ブランドである『ワnda』『三ツ矢』『十六茶』を中心としたブランドの強化・育成を積極的に進め、成長基盤の更なる磐石化を目指しました。東日本大震災の影響などにより『三ツ矢』は前年を下回ったものの、2月にリニューアル発売した『十六茶』や、新商品の発売と消費者キャンペーンの効果で主力ブランドが活性化し『ワnda』は好調に推移しました。また昨年7月に発売した『六甲のおいしい水』の上乗せ効果に加え、ミネラルウォーターやお茶において震災による需要増が発生したことなどにより、同社の売上数量は、前年同期比11.3%の増加となりました。

以上の結果、国内飲料事業の売上高は、前年同期比4.9%増の608億9千6百万円となりました。営業損益は、主に販売数量の増加やペットボトル内製化比率の向上などコスト削減の取り組みにより、前年同期比1億7千7百万円増加し、14億6千3百万円の損失となりました。

国内食品事業

「アサヒフードアンドヘルスケア株式会社」については、指定医薬部外品『エビオス』やサプリメント『ディアナチュラ』等の主要商品が、前年同期比2桁増を達成したことに加え、ダイエットサポート食品『スリムアップスリム』や栄養調整食品『1本満足バー』等も大幅増となったことなどにより、売上高を、前年より伸ばすことができました。

また、「和光堂株式会社」については、主力のベビーフードがレトルトパウチ食品『グーグーキッチン』のアイテム拡充などにより引き続き好調に推移し、前年の売上を上回りました。

「天野実業株式会社」については、流通販売事業において『フリーズドライ味噌汁』や『にゅうめん』等の主力商品がスーパー等の量販店で大幅増になったことに加えて、通信販売事業において顧客の購入単価が向上したことなどにより、売上高は引き続き拡大いたしました。

以上の結果、国内食品事業の売上高は、3月の東日本大震災により、一部の製造・物流拠点への被災を受けたものの、各社の主力商品のブランド強化に取り組んだことに加え、震災による需要増が発生したことなどにより、前年同期比8.3%増の230億5千2百万円となりました。営業利益は、「アサヒフードアンドヘルスケア株式会社」における広告・販促費の抑制などにより、前年同期に比べ10億3千1百万円増加し、11億1千3百万円となりました。

国際酒類飲料等事業

国際酒類飲料等事業につきましては、重点市場である中国において「青島啤酒股份有限公司」との戦略的パートナーシップの強化による青島ブランドの受託製造量の増加に加え、アサヒブランドの販売数量が前年を大きく上回るなど、好調に推移しております。また、アジア・オセアニア市場をはじめ中国以外の各地域でも、現地のパートナーとの提携を強化することにより『アサヒスーパードライ』のブランド力の強化に取り組みました。特に、韓国、タイ、オーストラリアにおいては、販売数量が計画を上回るなど、海外市場における『アサヒスーパードライ』の販売は好調に推移しています。

国際飲料事業につきましては、豪州において「SCHWEPES AUSTRALIA PTY LIMITED」では主要商品を中心にブランド強化のための投資を進めるとともに、販売体制強化や生産面、物流面での効率化を図るなど事業基盤の強化を図りました。

以上の結果、中国やオーストラリアの売上高は堅調に推移しておりますが、1月に売却しました韓国飲料事業の売上高がなくなったことなどにより国際事業全体の売上高は、前年同期比 15.0%減の 206 億 7 千 5 百万円となりました。営業損益は、中国ビール事業の収益性の向上と韓国飲料事業の売却に伴う収益の改善などがあり、前年同期に比べ 7 億 9 千 9 百万円増加し、6 億 1 百万円の損失となりました。

その他事業

外食、卸等その他事業については、売上高は前年同期比 6.2%減少の 129 億 4 千 2 百万円となりました。一方、営業損益は前年同期比 1 億 7 千 7 百万円改善し、3 億 6 千 3 百万円の損失となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて 720 億 9 百万円減少しております。これは、主として当社の売上高が季節により大きく変動することによるもので、第1四半期の売上高規模は最も小さいため、売上債権が最も多い会計年度末に比べ大幅に減少することによるものです。(なお、売上債権の前第1四半期連結会計期間末との比較では 2.3%減程度の差であり、異常値ではありません。)

負債は、前連結会計年度末に比べて 721 億 9 千 5 百万円減少しております。これも、主に季節要因にかかるもので、第1四半期の売上高規模により未払酒税や買掛金などが期末に比べ大きく減少することや法人税の支払による未払法人税等の減少などによるものです。一方で第1四半期は、支出超過傾向となるため、金融債務(短期借入金、1年内償還予定の社債、コマーシャル・ペーパー、社債、長期借入金の合計)は前連結会計年度末に比べ増加しております。

純資産は、前連結会計年度末に比べ 1 億 8 千 6 百万円増加しております。これは、配当金支出により利益剰余金が減少したものの、当期純利益の影響や為替換算調整勘定が増加したことなどによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の 43.6%から 45.9%に増加しました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は 185 億 8 千 7 百万円となり、前連結会計年度末に比べて 77 億 7 千 3 百万円増加しております。

営業活動によるキャッシュ・フローは 313 億 5 千 3 百万円の支出となりました。これは、主に第1四半期は売上高が最も少ない時期で事業収入が少ない一方で、売上規模の大きい会計年度末に計上した未払酒税など債務の支払や法人税の支払など支出項目が多いという季節的な要因によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得や投資有価証券の取得などの支出を行い、72 億 4 千 2 百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、462 億 8 千 1 百万円の収入となりました。これは、主に配当金の支出や営業活動及び投資活動の支出資金を短期借入金などで調達したことによるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成 23 年度の通期の業績につきましては、平成 23 年 2 月 8 日に公表しました業績予想から変更ありません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

① 簡便な会計処理

・一般債権の貸倒見積高の算定方法

一部の連結子会社は、当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

・繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

・棚卸資産の評価方法

当社及び一部の連結子会社は、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

② 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

税金費用の計算

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

① 「持分法に関する会計基準」および「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

当第1四半期連結会計期間より、「持分法に関する会計基準」（企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分）および「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第24号 平成20年3月10日）を適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

② 「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益および経常利益はそれぞれ12百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は473百万円減少しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成23年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,209	11,534
受取手形及び売掛金	192,340	274,379
商品及び製品	73,679	64,178
原材料及び貯蔵品	30,348	31,180
繰延税金資産	15,838	14,622
その他	34,195	30,842
貸倒引当金	△4,451	△5,685
流動資産合計	361,161	421,052
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	396,025	398,687
減価償却累計額	△227,025	△224,957
建物及び構築物(純額)	168,999	173,729
機械装置及び運搬具	492,937	489,228
減価償却累計額	△362,972	△357,706
機械装置及び運搬具(純額)	129,965	131,522
その他	141,663	141,789
減価償却累計額	△78,633	△79,224
その他(純額)	63,029	62,565
土地	179,647	182,569
建設仮勘定	4,573	6,714
有形固定資産合計	546,214	557,100
無形固定資産		
のれん	84,074	84,172
その他	36,889	37,640
無形固定資産合計	120,963	121,812
投資その他の資産		
投資有価証券	237,266	235,685
繰延税金資産	30,310	30,450
その他	42,539	45,156
貸倒引当金	△5,106	△5,900
投資その他の資産合計	305,009	305,392
固定資産合計	972,187	984,305
資産合計	1,333,348	1,405,358

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成23年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	72,937	102,948
短期借入金	72,221	69,259
1年内償還予定の社債	15,000	15,000
未払酒税	82,125	119,338
未払法人税等	576	32,493
預り金	19,769	19,609
コマーシャル・ペーパー	55,000	14,000
賞与引当金	7,365	2,817
その他	103,248	124,406
流動負債合計	428,245	499,874
固定負債		
社債	135,141	135,144
長期借入金	77,905	78,019
退職給付引当金	24,188	24,738
役員退職慰労引当金	219	597
資産除去債務	508	—
繰延税金負債	4,745	4,831
その他	49,536	49,481
固定負債合計	292,246	292,813
負債合計	720,492	792,688
純資産の部		
株主資本		
資本金	182,531	182,531
資本剰余金	150,872	150,910
利益剰余金	292,829	295,228
自己株式	△28,577	△28,721
株主資本合計	597,655	599,948
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	285	198
繰延ヘッジ損益	—	693
為替換算調整勘定	13,899	11,351
評価・換算差額等合計	14,184	12,243
少数株主持分	1,017	478
純資産合計	612,856	612,670
負債純資産合計	1,333,348	1,405,358

(2) 四半期連結損益計算書
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)
売上高	284,121	280,223
売上原価	184,472	176,499
売上総利益	99,648	103,723
販売費及び一般管理費	102,106	96,311
営業利益又は営業損失(△)	△2,458	7,412
営業外収益		
受取利息	64	78
受取配当金	160	38
デリバティブ評価益	—	2,384
持分法による投資利益	1,972	1,819
その他	421	440
営業外収益合計	2,619	4,760
営業外費用		
支払利息	1,104	921
その他	938	700
営業外費用合計	2,043	1,621
経常利益又は経常損失(△)	△1,881	10,552
特別利益		
固定資産売却益	625	74
投資有価証券売却益	7	—
関係会社株式売却益	—	2,629
貸倒引当金戻入額	1,534	1,252
持分変動利益	726	—
特別利益合計	2,893	3,956
特別損失		
固定資産除売却損	523	58
投資有価証券売却損	5	—
投資有価証券評価損	187	847
震災関連費用	—	6,927
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	460
その他	—	358
特別損失合計	715	8,652
税金等調整前四半期純利益	296	5,856
法人税等	821	2,561
少数株主損益調整前四半期純利益	—	3,294
少数株主損失(△)	△529	△340
四半期純利益	4	3,635

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	296	5,856
減価償却費	14,787	14,795
のれん償却額	1,622	1,340
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△265	686
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,654	△1,224
受取利息及び受取配当金	△225	△116
支払利息	1,104	921
持分法による投資損益(△は益)	△1,972	△1,819
投資有価証券評価損益(△は益)	187	847
関係会社株式売却損益(△は益)	—	△2,629
固定資産除売却損益(△は益)	△101	△15
売上債権の増減額(△は増加)	78,217	79,500
たな卸資産の増減額(△は増加)	△5,802	△10,278
仕入債務の増減額(△は減少)	△23,860	△27,476
未払酒税の増減額(△は減少)	△46,343	△37,214
その他	△14,002	△17,414
小計	1,985	5,758
利息及び配当金の受取額	4,595	105
利息の支払額	△650	△645
法人税等の支払額	△24,255	△36,571
営業活動によるキャッシュ・フロー	△18,325	△31,353
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△6,352	△5,696
無形固定資産の取得による支出	△1,476	△797
投資有価証券の取得による支出	△3,669	△318
貸付けによる支出	△577	△213
貸付金の回収による収入	940	318
その他	△40	△534
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,176	△7,242
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	34,945	52,298
リース債務の返済による支出	△581	△1,068
長期借入れによる収入	137	—
長期借入金の返済による支出	△2,120	△128
自己株式の取得による支出	△6	△2
配当金の支払額	△5,115	△5,817
その他	985	999
財務活動によるキャッシュ・フロー	28,245	46,281
現金及び現金同等物に係る換算差額	142	88

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,114	7,773
現金及び現金同等物の期首残高	18,082	10,813
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	2	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,970	18,587

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)

(単位:百万円)

	酒類	飲料	食品	その他	合計	消去又は 全社	連結
売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	168,702	79,801	21,290	14,326	284,121	—	284,121
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,378	160	417	11,052	14,008	(14,008)	—
計	171,081	79,961	21,708	25,378	298,129	(14,008)	284,121
営業費用	170,844	82,718	21,620	25,887	301,071	(14,492)	286,579
営業利益又は営業損失 (△)	236	△2,756	87	△509	△2,941	483	△2,458

(注) 1. 事業区分は、製品の種類、性質により区分しております。

2. 各事業の主な製品
- (1) 酒 類……………ビール、発泡酒、焼酎、ウイスキー他
 - (2) 飲 料……………清涼飲料他
 - (3) 食 品……………食品事業、薬品事業
 - (4) そ の 他……………不動産事業、外食事業、卸事業、物流事業他

3. 当第1四半期連結累計期間における営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額はありません。

4. 当第1四半期連結会計期間より、従来の「食品・薬品」について「食品」へ名称を変更いたしました。
なお、当該変更は、名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

b. 所在地別セグメント情報

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)

全セグメントの売上高の合計に占める「本邦」の割合がいずれも90%を越えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

c. 海外売上高

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)

海外売上高が、連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

【セグメント情報】

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営陣が経営資源の配分の決定等のために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、国内においては、主に酒類、飲料、食品の製造・販売を行っており、また、海外においては主に酒類、飲料の製造・販売を行っております。

したがって当社グループは「国内酒類」、「国内飲料」、「国内食品」、「国際酒類飲料等」の4つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントと「その他」の区分に属する主な製品及びサービスの種類は以下のとおりです。

「国内酒類」…… ビール、発泡酒、焼酎、ウイスキー他酒類製品の製造・販売

「国内飲料」…… 清涼飲料他の製造・販売

「国内食品」…… 食品、薬品の製造・販売

「国際酒類飲料等」…… ビール他酒類製品、清涼飲料の製造・販売他

「その他」…… 外食事業、卸事業、物流事業他

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年3月31日)

(単位:百万円)

	国内酒類	国内飲料	国内食品	国際 酒類飲料等	その他	調整額 (注)1	四半期連結損益計 算書計上額(注)2
売上高							
外部顧客への売上高	162,656	60,896	23,052	20,675	12,942	—	280,223
セグメント間の内部 売上高又は振替高	7,320	805	543	2	11,337	△20,010	—
計	169,977	61,702	23,596	20,677	24,279	△20,010	280,223
セグメント利益又は 損失(△)	8,767	△1,463	1,113	△601	△363	△39	7,412

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△39百万円には、主として、棚卸資産及び固定資産の未実現利益の調整額等が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結会計期間における、重要な発生及び変動はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) その他注記事項

(季節要因による影響)

当社グループの業績は、主要な事業である国内酒類、国内飲料事業の需要が特に夏季に集中するため、季節変動があります。特に第1四半期は、需要が通期で最も少ない時期であります。

4. 追加情報

(1) 補足資料

2011年第1四半期決算（連結）

<損益計算書>

(億円)

	第1四半期(1月～3月累計)			中間予想(2/8発表)		
		前年	増減		前年	増減
酒類事業	1,697	1,727	△ 30	4,300	4,207	93
飲料事業	622	594	28	1,566	1,434	132
食品事業	242	223	18	514	479	36
国際事業	207	244	△ 36	396	478	△ 82
その他	35	53	△ 19	44	76	△ 33
(酒税額 ※ 連結合計)	(761)	(779)	(△ 18)	(1,903)	(1,896)	(7)
売上高	2,802	2,841	△ 39 (△ 1.4%)	6,820	6,674	146 (2.2%)
酒類事業	84	1	83	270	233	37
飲料事業	△ 8	△ 10	2	43	31	12
食品事業	12	4	8	14	19	△ 4
国際事業	5	△ 5	10	5	△ 15	19
その他	△ 19	△ 15	△ 3	△ 37	△ 21	△ 16
(うち、のれん等償却費)	(△ 18)	(△ 19)	(1)	(△ 36)	(△ 36)	(0)
営業利益	74	△ 25	99 -	295	247	48 (19.5%)
営業外損益	31	6	26	30	32	△ 2
金融収支	△ 8	△ 9	1	△ 11	△ 12	1
その他収支	39	15	25	41	44	△ 3
(持分法投資損益)	(18)	(20)	(△ 2)	(44)	(51)	(△ 7)
(その他)	(21)	(△ 5)	(26)	(△ 3)	(△ 7)	(4)
経常利益	106	△ 19	124 -	325	279	46 (16.6%)
特別損益	△ 47	22	△ 69	△ 34	△ 11	△ 23
貸倒引当金戻入益	13	15	△ 3	-	7	△ 7
関係会社株式売却益	26	-	26	20	-	20
持分変動利益	-	7	△ 7	-	7	△ 7
固定資産売却却損益	0	1	△ 1	△ 28	△ 18	△ 10
投資有価証券評価損等	△ 8	△ 2	△ 7	△ 5	8	△ 13
震災関連費用	△ 69	-	△ 69	-	-	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	△ 5	-	△ 5	-	-	-
関係会社関連費用	-	-	-	-	△ 4	4
その他特別損益	△ 4	-	△ 4	△ 21	△ 12	△ 9
税引前利益	59	3	56	291	268	23
法人税等	26	8	△ 17	168	123	△ 45
少数株主損益	△ 3	△ 5	△ 2	△ 2	△ 11	△ 9
当期純利益	36	0	36 -	125	155	△ 30 (△ 19.6%)

<貸借対照表>

	第1四半期(3月末日)		
		前期末	増減
総資産	13,333	14,054	△ 720
金融債務残高	3,553	3,114	438

<その他>

	第1四半期(1月～3月累計)			中間予想(2/8発表)		
		前年	増減		前年	増減
売上高営業利益率	2.6%	-	-	4.3%	3.7%	0.6%
(酒税抜き売上高営業利益率)	3.6%	-	-	6.0%	5.2%	0.8%
設備投資	65	65	△ 1			
減価償却費	131	138	△ 7			

注) 上記の売上高及び営業利益は、個別会社の積み上げであり、セグメント情報とは異なります。

2011年第1四半期決算（個社別実績）

1:売上高

(億円)

	第1四半期(1月～3月累計)			中間予想(2/8発表)		
		前年	増減		前年	増減
アサヒビール	1,697	1,727	△ 30	4,300	4,207	93
酒類事業	1,697	1,727	△ 30	4,300	4,207	93
アサヒ飲料	579	547	33	1,460	1,327	133
エルビー	42	47	△ 5	106	106	△ 1
飲料事業	622	594	28	1,566	1,434	132
アサヒフード&ヘルスケア	113	101	12	241	226	15
和光堂	85	81	3	191	174	18
天野実業	43	41	3	82	79	3
食品事業	242	223	18	514	479	36
シュウエップス	174	174	△ 0	318	314	4
ヘテ飲料	-	43	△ 43	-	102	△ 102
中国事業計	29	22	7	68	53	15
その他	4	4	△ 0	10	10	0
国際事業	207	244	△ 36	396	478	△ 82
その他	35	53	△ 19	44	76	△ 33
(酒税額 ※連結合計)	(761)	(779)	(△ 18)	(1,903)	(1,896)	(7)
合計	2,802	2,841	△ 39	6,820	6,674	146

2:営業利益

(億円)

	第1四半期(1月～3月累計)			中間予想(2/8発表)		
		前年	増減		前年	増減
アサヒビール	84	1	83	270	233	37
酒類事業	84	1	83	270	233	37
アサヒ飲料	△ 8	△ 10	1	40	28	12
エルビー	1	0	1	3	2	1
飲料事業	△ 8	△ 10	2	43	31	12
アサヒフード&ヘルスケア	8	△ 1	9	6	8	△ 2
和光堂	3	3	△ 0	10	9	0
天野実業	0	1	△ 1	△ 1	2	△ 3
食品事業	12	4	8	14	19	△ 4
シュウエップス	9	9	△ 0	8	8	△ 0
ヘテ飲料	-	△ 8	8	-	△ 14	14
中国事業計	△ 4	△ 6	2	△ 3	△ 9	6
その他	△ 0	△ 0	0	△ 0	△ 0	△ 0
国際事業	5	△ 5	10	5	△ 15	19
その他	△ 19	△ 15	△ 3	△ 37	△ 21	△ 16
(内のれん等償却費)	(△ 18)	(△ 19)	(1)	(△ 36)	(△ 36)	(0)
合計	74	△ 25	99	295	247	48

注) 上記の売上高及び営業利益は、個別会社の積み上げであり、セグメント情報とは異なります。

2011年第1四半期決算（単体）

<国内販売数量>

(万箱)

	第1四半期(1月～3月累計)			中間予想(2/8発表)		
		前年	増減		前年	増減
ビール	1,943	1,986	△43 (△2.2%)	4,900	4,952	△52 (△1.1%)
発泡酒	340	391	△51 (△13.0%)	700	885	△185 (△20.9%)
新ジャンル	745	693	52 (7.4%)	2,000	1,687	313 (18.5%)
合計	3,028	3,070	△42 (△1.4%)	7,600	7,525	75 (1.0%)

<損益計算書>

(億円)

	第1四半期(1月～3月累計)			中間予想(2/8発表)		
		前年	増減		前年	増減
ビール	1,026	1,043	△17 (△1.6%)	2,610	2,628	△18 (△0.7%)
発泡酒	131	150	△19 (△13.0%)	270	340	△70 (△20.5%)
新ジャンル	246	229	17 (7.5%)	662	558	104 (18.6%)
ビール・発泡酒・新ジャンル計	1,403	1,423	△20 (△1.3%)	3,542	3,526	16 (0.5%)
焼酎	98	109	△11 (△10.5%)	230	237	△7 (△3.0%)
低アルコール飲料	60	64	△4 (△7.4%)	165	140	25 (18.3%)
洋酒	66	59	7 (12.5%)	162	133	29 (21.9%)
ワイン	21	25	△4 (△13.4%)	47	51	△4 (△7.8%)
その他酒類等	11	7	4 (47.9%)	44	17	27 (151.7%)
総合酒類計	255	264	△9 (△3.3%)	648	578	70 (12.1%)
受託製造	34	36	△2 (△6.1%)	101	94	7 (7.4%)
不動産他	4	4	△0 (△1.8%)	9	9	0 (1.5%)
(酒税額 ※単体合計)	(758)	(777)	(△19) (△2.4%)	(1,895)	(1,891)	(4) (0.2%)
売上高	1,697	1,727	△30 (△1.7%)	4,300	4,207	93 (2.2%)
ビール類数量増減(※)	-	-	△6	-	-	11
総合酒類部門売上減	-	-	△3	-	-	24
製造原価コストダウン	-	-	12	-	-	17
物流関係コストダウン	-	-	2	-	-	2
製造原価コストアップ	-	-	△2	-	-	△3
物流関係コストアップ	-	-	0	-	-	△3
容器構成差	-	-	4	-	-	3
販促費減	173	219	46	475	465	△10
その他経費減	-	-	32	-	-	10
その他経費増	-	-	△2	-	-	△14
営業利益	84	1	83 -	270	233	37 (15.8%)

(※)ビール△7、発泡酒△6、新ジャンル7

(注)単体決算数値は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

2011年第1四半期（アサヒ飲料）

＜販売数量＞

(単位:万箱)

	第1四半期(1月～3月累計)			中間予想(2/8発表)		
		前年	増減		前年	増減
炭酸飲料	670	755	△85 (△12.3%)	2,040	1,962	78 (4.0%)
果実飲料	185	206	△21 (△11.1%)	530	538	△8 (△1.6%)
コ－ヒ－飲料	854	809	45 (5.6%)	1,880	1,792	88 (4.9%)
お茶飲料	727	680	47 (7.0%)	1,880	1,681	199 (11.8%)
健康・機能性飲料	128	108	20 (18.8%)	290	304	△14 (△4.7%)
ミネラルウォーター	415	88	327 (371.6%)	810	261	549 (209.9%)
その他飲料	34	21	12 (58.3%)	70	27	43 (160.5%)
仕入品	191	213	△22 (△11.3%)	530	531	△1 (△0.1%)
合計	3,204	2,880	324 (11.2%)	8,030	7,097	933 (13.1%)

＜損益計算書＞

(単位:億円)

	第1四半期(1月～3月累計)			中間予想(2/8発表)		
		前年	増減		前年	増減
炭酸飲料	119	134	△16	363	349	14
果実飲料	29	33	△4	89	89	0
コ－ヒ－飲料	186	177	9	406	387	19
お茶飲料	120	113	7	310	278	32
健康・機能性飲料	24	20	4	52	55	△3
ミネラルウォーター	50	15	35	97	43	55
その他飲料	12	10	3	34	18	15
仕入品	40	45	△4	109	109	1
売上高	579	547	33 (6.0%)	1,460	1,327	133 (10.0%)
販売数量増	-	-	9	-	-	28
製造原価コストアップ	-	-	△7	-	-	△14
コストダウン(※1)	-	-	12	-	-	13
品種・容器構成比差他	-	-	1	-	-	6
広告・販促費増	-	-	△14	-	-	△6
その他経費増減他	-	-	0	-	-	△15
営業利益	△8	△10	1 -	40	28	12 (42.8%)

【備考】

※1 原材料+10億円(PET樹脂+4億円 甘味料+2億円 コーヒー+2億円ほか)